

金属熱処理業について

【金属熱処理業とは】

金属熱処理とは、金属を加熱と冷却の組合せによって、製品の形を変えることなく、材料の機械的性質を向上させることを言います。

我が国における熱処理は、今からおよそ1400年前、飛鳥時代に大陸から渡来した刀鍛冶から始まったと考えられています。

金属熱処理は、自動車・建設機械・家電製品をはじめ、殆どの工業領域に技術を提供し、鋼材の耐久性・対磨耗性・耐疲労性の向上に貢献する基盤業種です。

現在では、技術革新に伴い、鋼材のほかにもアルミニウム合金、チタン合金などの新素材に対してもより一層の強度と品質の均一化を図るために熱処理は必須とされています。

金属熱処理の世界は、直接かたちとして表れないために見過ごしがちになりますが、パチンコ玉からロケットまで、広く、深く私たちの世界に浸透しています。



【金属熱処理業で求められる人材】

好奇心がある、ものづくりに関心がある、ここという時には集中できる方、大歓迎です。

特に工業高校、高専、大学で金属、冶金等を学んだ方、また、一般の高校、文系の大学の方でもぜひ門を叩いてみて下さい。

金属熱処理業と一口で言っても様々な作業があります。

現場でのものづくり、検査の保守、研究、業務、管理など実に幅広い作業があります。

職場についてこれらの中からご自分に向けた作業に進むことができます。

そのための作業の訓練、技術の修得、ステップアップのための資格の取得などを企業がサポートします。

中途採用を募集している企業もあります。

30歳～40歳からでも、やる気と根気次第で「ものづくり職人」への道が開けます。

【金属熱処理業で働くことの魅力】

金属熱処理は、会社ごとに得意技術を持ち、取引先も多業種にわたります。そのため中小企業が多い業界ながら不況に強いと言われていています。

3K職場と思われがちですが、近年では機械化が進み、会社によっては女性が熱処理技能士などの資格を取得して、現場作業に入る姿も見受けられます。

資源を海外に頼っている我が国の産業は製品付加価値を与えることによって成り立っています。

金融危機に端を発した景気後退を打破するため、今こそものづくりの実力を世界に示す良いチャンスと考えます。

金属熱処理はほとんどの製造業の現場でものづくりを支えています。

ギア



ベアリング



アルミホイール



ボルト・ナット



あらゆる産業で採用されている熱処理部品の一例

【若手従業員の声】



熱処理部品というのは、外観だけでは製品の良し悪しを判断することが困難であり、またその多くが人の安全にかかわる製品ばかり。そのような重要な製品の検査に携わるということはプレッシャーであり、やりがいでもあります。

まだ、上司・先輩に頼ってしまうことも多いので、今後は自分で判断できる検査技術・熱処理知識を身につけたいと思っています。

日高工業(株)入社8年目 鵜飼さん

【金属熱処理業の主なキャリアプラン】

工業高校在学中でも訓練科により、3級技能士の受検資格が認められます。

また、熱処理の知識は、金属を扱う製造業なら無駄になることはありません。

日本における金属熱処理の技術水準は、世界のトップレベルであり、技術を身につけて海外で技術指導など活躍することも夢ではありません。